

マネジメントコース研修生のつばやき

編集者注：このコンテンツは、マネジメントコース(※)の研修生が持ち回りで担当し、それぞれの所感等を述べたものです。

※ 地方自治体職員が、自治大学校で一年間を過ごす研修。研修期間中の概ね半分は自治大学校の実務に従事、半分は通常の研修(第1部課程等)を履修することによって、実践的に高度の政策形成能力及び行政管理能力の向上を図るもの。

令和4年4月から始まった自治大学校での日々は、大変有意義なものです。拙稿では当地での生活の素晴らしさを紹介します。

○仕事○

4月から10月中旬まで、自治大学校の一員(前期特別研修生)として総務省職員の皆様と一緒に働きます。研修を受ける側ではなく、準備する側なので、多様なロジ業務があります。研修をただ受ける側では考えもしなかった状況に身を置くことで、視野が広がります。また、総務省の皆様の働きぶりに触れることは良い刺激になります。そして、各分野の第一人者である講師の警咳に接する機会も多く、得難い経験をしています。

目の前の研修業務をこなすだけでなく、将来の研修のよりよいあり方・内容の検討も行います。研修分野の趨勢を把握し、社会需要を見通すためには、綿密な調査・分析が必要になります。業務のために必要な勉強が、社会を見る目の解像度を一段も二段も上げてくれます。

○寮生活等○

感染症を適度に警戒しつつ、研修生同士、仲良く過ごしています。皆、各自治体の将来を担う人材だけあり、オンオフの切替えが上手です。また、各地から届けられる珍しい酒食のふるまいも、懇親に一役買っています。

長期の研修生活のため完璧に設計された建物・敷地内は快適です。生活必需品を一揃いさせた後は、敷地から出なくても困りません。個室も過ごしやすく、衛生的です(週1回シーツ等交換)。

図書室には歴史的価値の高い文献から新刊書まで揃っており、勉強が捗ります。食堂での三食は味と栄養が整っています。ジム・グラウンド・自然豊かな庭での運動で、健康そのものです。また、外出したくなったら、自転車で5分の立川駅周辺には何でも揃っていますし、途中の昭和記念公園で休憩するのもいいです。立川市役所の研修生から得た情報を元に、週末に外食(テイクアウト)するのも楽しみの一つです。

この恵まれた環境と境遇に感謝しつつ、地元に残した家族への想いを胸に、一日一日を大切に精進して参ります。(T. I)



庭から見た食堂(中央1階)と寮(後ろ2棟)